

世界の子育て紹介 リッチモンドだより 第8回

大多数のお父さんは子育てに関わっている

日本語プレイグループ「宝島」 須賀 孝子

いろんなカナダのお父さんたち

カナダでは12歳まで子どもの送り迎えを義務づけられているせいもあり、学校でお父さんたちとも顔を合わせる機会が多いです。お友だちの家に食事に呼ばれるときも、家族全員が呼ばれるので、いろんなお父さんたちとお話することができます。移民の国カナダには、いろいろなお国のお父さんたちがいます。そんな「カナダ」のお父さんたちについて、今回はお話したいと思います。

我が家のお隣のイギリス系カナダ人ご夫婦は、お父さんはゴードン、お母さんはアリスで、2人の息子さんがいます。家事はほとんどアリスがしていますが、息子さんたちを習い事やスポーツ、友だちの誕生日パーティーに連れて行くのはゴードンの仕事です。庭でたまに子どもに野球やホッケーを教えています。弁護士という忙しいお仕事をしていても、必ず夕飯までには帰宅し、週末は家族と過ごします。広いお庭の芝刈りも黙々とこなします。

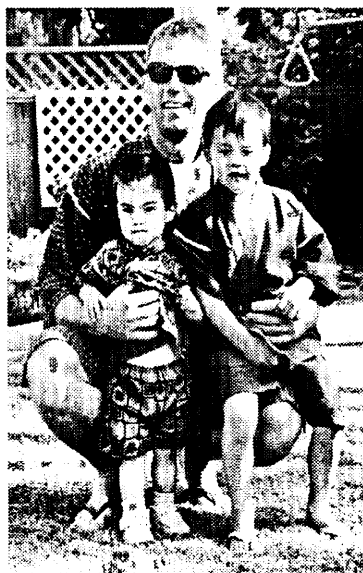
私の長男の親友のご両親は、6年前にカナダに移民して来ました。フランス人のお父さん・ジュリアンとスペイン人のお母さん・メルセデスです。ジュリアンは2人の息子さんたちのサッカーチームのコーチをボランティアで務めています。家事は苦手ですが、子どもと遊ぶのが大好きな楽しいお父さんです。

私の友人夫婦は、カナダ生まれの中国系カナダ人で、お父さんのレイモンドは1人息子のホッケーチームのコーチをしています。お母さんのシャーリーは「レイモンドはうちのことで何もしないのよ」と言いますが、息子のホッケーの練習や試合には何をおいてもついていき、仕事で忙しくても毎年家族でキャンプ旅行に連れていってくれるのはとても感謝しているそうです。

お父さんはイギリス系カナダ人のノエル、お母さんのエクアドル系カナダ人のキャシーは主人の友人夫婦です。7歳・4歳・2歳のお子さんがいて、毎日子育てに追われています。二人目・三人目のお子さんが産まれたとき、ノエルは子育て休暇を3か月ずつとり、家事の一切を引き受けました。彼らに会いに行くと、必ず赤ちゃんを抱っこ紐で抱っこしていたのはノエルでした。子育て休暇が終わっても、ノエルはコンピュータプログラマーの仕事と料理をこなし、キャシーは半年間一度も夕飯を作らずに済みました。キャシーの心配事は「ノエルはここ数年男同士でお友だちと出かけることもしていないのよ。お友だちがいなくなるんじゃないか心配で・・・」だそうです。

最後に私の主人ライナーですが、彼はドイツから10歳の時にカナダに移民してきました。義務

料理嫌いだったせいもあり、小さな頃から自分で料理をしてきた彼は他の家事も難なくこなします。子育てに関しては私よりも知識があり、安心して育児を任せられます。我が家にホームステイをする日本人の方たちは彼を「スーパーディー」と呼んでいました。



仕事以外の時間は家族と過ごすのが一般的

以上に挙げたお父さんたちは、比較のお母さんたちをHAPPYにしているカナダのお父さんたちです。もちろんお母さんたちもそれなりに他人には見えない夫に対しての不満を抱えていますし、愚痴の一つや二つ持っていますが・・・

カナダにも「平日は仕事で遅く帰り、週末は昼からビールを飲んで何もしない」お父さんや「家事も子育ても一切しないけど偉そうにする」お父さんももちろんいます。しかし私の知る限り、子育てになんらかの形で関わっているお父さんたちが大多数であることは間違いないようです。理由はいくつか考えられますが、カナダのお父さんたちは「残業」「休日出勤」をあまりしないということ。仕事は仕事。自分の人生を楽しむために仕事をするのです。「接待」というシステムもないし、上司が帰るまでは部下は帰れないなどという無駄な気遣いもありません。仕事以外の時間は家族と過ごすのが一般的です。もう一つの理由として考えられるのは、学校はあくまでも子どもたちが昼間過ごす場所であって、しつけは家庭です。と親が自覚しているからかもしれません。もし子どもが放課後に万引きなどの問題を起こしても、両親へ連絡がくるでしょうが、学校へは連絡はかかないと思います。子どもの世話・しつけはあくまでも両親の共同作業・責任と考えられているからでしょうね。

先週末(6月18日)、「宝島」が会場をお借りしている仏教会で「父の日」キャンプが催され、主人と子どもたちでお寺にお泊りに行きました。「父の日」にお父さんが家でのおんびりするのではなく、子どもたちと楽しい時間を過ごす、という発想がとてもカナダらしいと思いました。